

研修科目および研修例(一般プログラム)

東京慈恵会医科大学附属第三病院

【プログラム特徴】

- ・ 必修科目は内科6ヶ月、救急部3ヶ月、地域医療1ヶ月の他、外科2ヶ月、麻酔科2ヶ月、ICU1ヶ月は医師としての土台づくりに必須であると考え必修とした。
→内科6ヶ月については将来どの専門科に進んでも基本となる診療科であり、診療能力を継続して向上させる為、1年目4ヶ月、2年目2ヶ月とセパレートさせた。
またこれにより1、2年目研修医、レジデント、上級医の屋根瓦方式の指導体制となり、高い教育効果が生れた。
→救急部3ヶ月についても同様の教育効果を考え、1年目と2年目にセパレートさせることとした。(救急部 1年目2ヶ月、2年目1ヶ月)
- ・ 選択必修科目は精神神経科、小児科、産婦人科の中から1診療科を1ヶ月単位として2診療科を選択とした。
- ・ 選択科目は1、2年目合計7ヶ月とし、研修医の幅広いニーズに対応できるようにした。

第 1 年 目											第 2 年 目												
必修科目										選択科目		必修科目					選択必修		選択科目				
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
4				2		2		2		2		2		1	1	1	2		5				
内科				外科		麻酔部		救急部		選択科		内科	地域医療	救急部	ICU	精神 産婦 小児 (選択)		選択科					

1. 上記は一例であり、1年目の必修科目(内科、外科、麻酔部、救急部)、および選択科目の順番は各自異なる。また、内科が4ヶ月継続するということではない。同様に、2年目の必修科目(内科、地域医療、救急部、ICU)、選択必修科目(精神神経科、小児科、産婦人科)、選択科目の順番も各自異なる。選択必修科目に関しては精神神経科、小児科、産婦人科より2診療科を選択し各1ヶ月研修する。また、2年目の選択科目は5ヶ月継続するということではない。
2. 選択科目は、以下の一定の条件の下、各自が自由に組み合わせることができる。
 - 1) 内科の各診療科については1診療科につき2ヶ月、もしくは4ヶ月単位での履修とする。

選択科(2ヶ月、4ヶ月のいずれか)

総合診療部、消化器・肝臓内科、神経内科、腎臓・高血圧内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腫瘍・血液内科、循環器内科、呼吸器内科

選択科(1～5ヶ月)

外科、麻酔部、小児科、精神神経科、産婦人科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線部、救急部